

クライメート・リアリティ・プロジェクト・ジャパン：私たちが COP28 で求めること

COP28 において、私たちクライメート・リアリティ・プロジェクト・ジャパンは、パリ協定の目標（地球温暖化を 1.5 度以内に抑える）達成のための取組を世界および日本が実現することを求めます。私たちは、日本が世界最大の温室効果ガス排出国の一つおよび化石燃料への最大の資金提供国の一つであるという歴史的責任を認識しています。気候危機は正義（Justice）と人権の問題であり、私たちはこの問題を解決するための人々やコミュニティの力を信じています。

クライメート・リアリティが求めること

このセクションでは、クライメート・リアリティの COP28 における主要なテーマに関する立場や要求を、グローバルと日本の観点からまとめています。

排出削減

グローバル

COP は、全世界の排出量の 75% を占める化石燃料のすべてのフェーズアウト（段階的廃止）に取り組む必要があります。また、2030 年までに再生可能エネルギーの容量を少なくとも 3 倍、エネルギー効率を少なくとも 2 倍に増やし、2030 年までにエネルギーセクターからのメタン排出をほぼゼロに減少させる必要があります。

日本

世界で 5 番目に大きな温室効果ガス排出国である日本は、迅速に再生可能エネルギーに移行し、すべての化石燃料のフェーズアウトに取り組む必要があります。日本は 2022 年にエネルギーミックスの 70% 以上を化石燃料に依存しており¹、より野心的なアプローチが必要です。日本は石炭火力発電での水素・アンモニア混焼や CCUS などの新たな技術を模索していますが、これらはまだ実験段階にあり、2030 年までの排出削減目標を達成するためには間に合わず、また結果として化石燃料の延命につながります。

公正な移行のための資金提供

グローバル

COP は、化石燃料への資金提供を停止し公正な移行への転換を実現する必要があります。先進国は開発途上国の気候資金のために 1,000 億ドルを拠出するという約束を実現し、証拠を示さなければなりません。グリーン気候基金へコミットし、今年の拠出がこれまでで最大となることも確実にする必要があります。

日本

日本は石油、ガス、石炭プロジェクトの開発に 2019 年から 2021 年にかけて年平均 106 億ドルを拠出し、化石燃料プロジェクトへの公的資金拠出額が世界最大の国となっています²。日本による化石燃料プロジェクトへの継続的な資金提供は、世界の化石燃料への依存、そして気候およびエネルギー危機を継続・悪化させ、人々に深刻な影響を与えています³。

日本はその資金を公正な移行や適応、損失と損害への対応に再配分する必要があります。G7 は化石燃料への新たな直接的な公的支援の停止を約束しており、そのメンバーの日本も、公正な移行、適応、および開発途上国における損失と被害への対応に役立てるために迅速に資金の転換することが重要です。

利益相反の指摘とシステムの改革

グローバル

COP28 の議題には化石燃料のフェーズアウトという重要な項目が欠けています。COP は、化石燃料生産国やロビイストの影響に対処し、COP の成果に関するメッセージがグリーンウォッシュされないようにする必要があります。COP は、議題が客観的であり、交渉が特定の国やロビイストからの妨害に影響を受けないようシステムの改革の検討を始めるべきです。

¹ Institution for Sustainable Energy Policy

² CAN-International

³ Oil Change International

日本

日本は「偽の解決策」を支持することを避け、迅速で公正かつ公平な再生可能エネルギーへの移行に向けた道を積極的に追求するべきです。2023年に成立した「グリーン・トランスフォーメーション（GX）」政策は、ガス、水素・アンモニア混焼、CCUSなどの化石燃料に基づく技術に大きく依存しています⁴。また、これにより企業による化石燃料プロジェクトへの投資が続いており、脱炭素化社会を支援する公式の立場と矛盾しています⁵。さらに、18カ国からの140以上の団体が、岸田文雄首相に対し、フィリピンでの34の新しいガス発電所と11のLNG輸入ターミナルの計画を含むアジアでの化石燃料の推進と拡大を停止するよう公開書簡で求めています。⁶

日本のクライメートリーダーからの声

クライメート・リアリティは気候危機の解決に向け様々な立場の方（クライメート・リアリティ・リーダー）が日本全国で活動するコミュニティです。ここでは、その数名の意見を紹介します。



太田 知明

医師、生物多様性への影響グループ

“人命と生態系の保護のため、私たちは軍事関連の温室効果ガスの測定と報告を求めます。”



鈴木康平

教育、ビジネスインダストリーグループ

“1.5度目標を達成するための効果的な計画への合意が必要であり、気候正義に基づいた各国間での責任の分配を保証することが求められます。”



曾我美穂

ライター、気候教育グループ

“気候正義と関連する問題は、日本ではほとんど知られていません。私たちは、気候正義のためのグローバルな運動に合わせて、日本での意識向上と活動の増加を目指します。”



クライメート・リアリティ・プロジェクト・ジャパニー留学生インターンチーム

“迅速に気候正義を求めらる中で、気候危機の影響と基本的人権との間の関連を認識しています。安全で健康的な環境への権利を強調し、公平な気候資金を支持し、グローバルノースとサウス間の協力を求めます。特にグローバルサウスからの包括的な声を聞き、公平な気候資金を保証することを求めます。”

問い合わせ先

クライメート・リアリティ・プロジェクトは、世界中で人々を訓練し動員して気候危機に取り組むグローバルな取り組みであり、2050年までに真のネットゼロを達成するための気候行動を加速させることを目的としています。 <https://www.climaterealityproject.org/>



クライメート・リアリティ・プロジェクト・ジャパニー

<https://climaterealityjapan.org/>

プロジェクトマネージャー 三谷 優衣子

japan@climatereality.com

このポジション・ペーパーの参照資料等の詳細を含むフルバージョンは右記QRコード、またはこちらからご覧いただけます。 <https://bit.ly/JP-positionpaper>

2023/11/24 発表



⁴ Influence Map

⁵ 世界経済フォーラム

⁶ Fossil Free Japan